



# 年賀特集 「市町管理橋梁の適正な



【そごう・しげゆき】  
1974年に九州工業大学大学院を修了し、大林組に入社。技術研究所に37年間勤務したのち、2011年から広島工業大学教授を務め、定年退職後の17年にコンクリート補修に関する異業種間連携のための組織・近未来コンクリート研究会を設立した。広島県コンクリート診断士会会長、コンクリートメンテナンス協会顧問なども兼任し、構造物の適正な維持管理に向けて力を注いでいる。1948年4月5日生まれ。72歳。呉市出身。

## 十河氏 経験なしでも丁寧の説明 「参考になった」の声が力に

はじめ、ご協力いただいているコンクリートメンテナンス協会や広島県コンクリート診断士会、太平洋マテリアルの方々には深く感謝を申し上げます。

—今後の活動予定について  
甲斐 広島市が管理する橋梁を除いた数字となるが、当協会が運用する「セットマネジメントシステム」に登録されている市町が管理する橋梁数(農道橋、林道橋、管理道橋を除く)

くは1万4460橋、5年に一度の定期点検のデータに加え、全体研修などを通じて呉市、東広島市、安芸高田市については精度の高いデータが採れたので、残り20市町についてもデータを収集することが当面の目標。十河さんにもあと20回くらいは付き合っていただかなんては(笑)。

十河 体力の続く限り頑張ります(笑)。また、特に小規模な自治体には言葉が通じませんが、橋梁点検の大半をコンサルに委託して結果を受け取っており、コンサルも全ての人がコンクリート診断士の資格を持っている訳ではないので、必ずしも正しい判断がされない。さらにほとんどの市町にはチェックを適正に行える技術者がいないことが深刻な問題だ。やはり市町の担当者でもある程度の知識を持つことは絶対に必要なので、経験がなくても理解できるように、研修会の内容もさらに噛み砕いたものにしていかないといけないだろう。

甲斐 小規模な自治体は予算的にも厳しい。少しでもシンプルに点検・補修を行える仕組みづくりは急務。

—技術力を担保するため、技術職の異動を控えるなどの動きはないのですか  
甲斐 今のところは見て取れない。2〜3

年で異動になるのが一般的で、例えば5年に延ばせば技術もノウハウも蓄積できるように思えるが、人数を増やさない限り断片的な管理になることは変わらない。それよりも多くの職員に基礎的な知識を身に付けてもらうことに重点を置いている。

十河 制度自体を委縮しないと難しいだろう。職員の不足が根底にあるので、動かさなことを考えるよりも国や県が小規模な自治体の維持管理をサポートする仕組みづくりの確立が重要だ。国も支援に乗り出しているが、国と市町では持っている橋梁の規模があまりにも違うため、市町の悩みと感覚的なズレが生じているように思える。

—最後に、今後の活動への思いは

十河 長くセネコン土研所で主に新設構造物に関わってきたが、一方で長寿命化を目標としながらも劣化した構造物を生み出した経験もあり、関与したもので劣化の可能性がある構造物は、いまだに気になって様子を見に行く。その後、大学で維持管理を中心に活動したことで、退職後は静かに老後を楽しみたい道もあったが、これまでの経験を生かせればという思いで現在の活動に至っている。正直言ってまったく利益にはならないが、少しでも伝えれば嬉しいし、研修等で「参考になった」と言ってもらえるとモチベーションも上がる。また、これらの活動は仲間の応援がないとできない。ご協力いただいている皆様には非常に感謝しており、今後もできる限りお役に立ちたい。

甲斐 小規模橋梁の点検は似たような症例も多い。まずはそのような橋梁だけでも職員が点検できるようにすればかなりコストを下げられるし、経験を積むことでコンサルの成果品を高い知識でチェックできるようになる。そうすることでコンサルの点検技術・精度も上がり、点検頻度も年に一度より減らせる可能性もある。また、これは希望の域を出ないが、点検時と補修工事時の劣化部を写真で比較し、補修工法の選定なども含めて知識ではなく目で見て判断できるマニュアルが確立されたら、小規模橋梁についても、橋梁点検と補修設計を一本化した標準設計シートのようなものが作成され、これらによる工事の発注が可能となれば、多くの自治体の助けになると思う。これは国・県のご協力がなくてはできないし、何よりこうした仕組みが補助金の対象として認められたかなければならない。いずれにしても、ご教授をいただきながら少しでも多くの橋梁が健全に点検・補修できる仕組みができればいい。

十河 ええ、市町管理橋梁の適正な点検・補修に向け、連携を深めていければ。



「橋梁補修講座」(2017)



「ブロック研修」(中部、2014)



「橋梁補修講座」(2019)



「ブロック研修」(中部、2017)



「橋梁補修講座」(2019)



「ブロック研修」(中部、2017)